

## 第6回 (仮称)岩槻人形会館開設準備委員会 議事録概要

- 1 日 時 平成23年7月15日(金) 10:00~11:30
- 2 会 場 大宮区役所東館301会議室
- 3 出席者 【委 員】林委員長、是澤副委員長、大越委員、村上委員、  
田島委員、戸塚委員、井藤委員、新井委員  
【事務局】市民・スポーツ文化局 小山局長  
スポーツ文化部 野間部長、服部次長、桑原参与  
文化施設建設準備室 伊藤準備室長、川田主査、内田主任、  
菅原主事、平井主事
- 4 次 第
  - (1)開 会
  - (2)局長挨拶
  - (3)議 事  
報 告  
(仮称)岩槻人形会館来館者数の目標設定等について  
議 題  
ア 資料整理状況について  
イ 支援組織づくりについて
  - (4)その他
  - (5)閉会
- 5 局長挨拶等
  - ・会議に先立ち、局長挨拶及び菊池委員が岩槻区長を退任し新任の新井区長が委員として委員会に加わることと、建設準備室に4月より、菅原、平井両名の学芸員が採用・配属された事が報告される。

## 6 報 告（仮称）岩槻人形会館来館者数の目標設定等について

委員長：それでは、事務局より来館者数の目標設定、収支、経済波及効果について報告をお願いします。

事務局：（事務局より来館者数の目標設定等について報告が行われる）

委員長：具体的な根拠と数値で来館者数の目標、収支、経済波及効果について提示してもらった。新聞報道等を見て、色々な印象を持っている方もいるかと思う。

A委員：来館者目標7万人、これは控え目な数字と思っている。雛めぐりのイベントでは7～8万人が来ていると言われている。そのうちの5万人は施設に来ると思っている。雛めぐりのコースと計画地は離れているが、雛めぐりにきた人は、人形会館を見ないと完結しないとすれば、その時に来る人の80%は施設に来るのでは。流し雛の時も大変な人数が集まる。新聞等によると赤字が1億4,000万円という構造が前面に出るのが残念。経済波及効果、観光振興、地域の文化度の向上など、さまざまな投資であると思っている。

委員長：目標設定が少なすぎるのではという事と、新聞記事についての意見があった。見る側の立場によって様々な意見が出ると思う。新聞社は何を「キャッチ」にすると関心を引くかを考えて記事を書いている。あまり気にしていると、やっていけないか。一般の方が見ると、ああそうかと思うだろう。このあたり、事務局に何か考えはあるのか。

事務局：赤字という言葉がいつの時代から使われたのか。以前は、運営費が掛かるものとして施設を作っていた。例えば金沢の21世紀美術館は年間150万人の来館者があるが、4億円が市の持ち出しとなっていると聞いている。博物館や美術館で収支を黒字とするのは難しいのではないか。

委員長：建設に対して反対の声を上げている人が多いとのことで、新聞が取り上げているが、その都度反論することもできない。現時点では、粛々と建設を進めるとして、委員会では検討を進めるべき。議会や地元からも意見が出てくるだろう。美術館または博物館ができる事のメリットをきちんと伝えていく努力が必要。

事務局に専門職が配属されたので、そういった専門的な力を使い、情報を出していく努力が必要。

B委員：収支は委員長がおっしゃった通り。経済波及効果を具体的に示さないと、説得力に欠ける。私が見えないのは、経済波及効果の間接効果、二次効果で、消費支出についてどのような前提で検討されたのかを知りたい。

準備室：(直接効果が施設建設への投資額とそれに付随する間接1次効果で想定されていること、また間接2次効果とは、7万人の来場者の交通費や飲食費等による効果で、さいたま市が行った基礎調査などにより1人当たりの消費額を設定するなどし、組み立て試算した事を説明)

委員長：今の説明で宜しいですか。

B委員：いかにこの係数を上げるかという事か。施設ができた場合と、できない場合の両方の数字も必要では。施設ができる事で係数を上げることができるとかをこの資料に入れたらどうか。施設ができる事で来る人の半分が飲食をするという条件にするとか。そこを改めてどうするかも含めて。そういうところで魅力的なまち、魅力的な施設という世論に結びつけていくのかと思う。

C委員：現実の問題として、岩槻の産業連関と浦和では違う。このような試算と、実際に誰かが支出するというのは違う話である。例えば500円の弁当を岩槻に持ち込んで食べた場合、岩槻にとっては環境に対する負荷の軽減になる。経済効果を上げると環境負荷が上がる事もある。岩槻は都会ではないので、弁当屋が地元の野菜で弁当を作り、それを買って岩槻で食べないと(持ち帰った場合は)どうか。

委員長：計算の仕方やデータの捉え方はいろいろあると思う。さきほど7万人という目標が少ないという意見があった。埼玉県立博物館も10万人を集客していたが、今は10万人を切っている。川越市立博物館も10万人を切っている。これは利用者の意識が多様化してきている事からと考える。新しい情報に人が流れていっている。あまり大風呂敷を広げても、後で大変ではと個人的には思う。それでは、この報告について宜しければ、議題に移りたいが。

## 7 議 題

### ア 資料整理状況について

委員長：資料整理状況について事務局より説明して頂きたい。

事務局：(資料整理状況について説明を行う)

委員長：資料の整理に関して、指導を頂いているD委員より何かありますか。

D委員：ようやく具体的な段階に入った。展示構成についてどういったものが必要かであるが、どういう博物館にするか具体的にする必要があると思う。地域の博物館か、日本の博物館か。具体的に作業を進めていると、博物館について位置づけて頂けると思う。資料がはっきりすれば、雛めぐりにどう連動できるかもはっきりするだろう。数ヶ月で明確になると思う。学芸員2人で調査、収集、保存、開館後のコンセプトづくり、教育普及といった仕事を行うとなると厳しいと考える。専門家としての対応も必要であるが、その前に体制を整えて欲しい。資料の収集をしていて、消耗品や備品をどうするか、手当してもらった必要があると思う。日々研究は動いているので、他の博物館にどのような図録があるのかといった基本的な資料を早めに揃えておいた方が良いと思う。

委員長：それなりの資料点数があり、一步一步作業は進んではいるが、作業が多い事、環境が整備されていない事から、人的な選定がさらに必要であるということか。時々資料を見ているが、専門職の採用が必要であると思う。

E委員：収集や購入についてどう考えるのか。

委員長：具体的な展示案を検討しているが、資料が充実しないと展示が難しいので、新たな資料の収集について、以前に具体的な案もあったが、今後の進め方はどうであるか。

事務局：購入については、寄贈、寄託といった資料の収集もあると考えているが、今の段階で購入についてはお答えができない。委員会でも意見が出ているので事務局も検討しないとイケないとは考えているが。

委員長：購入に向けての準備、交渉は常に行っていく必要があると思う。今の資料で展示するとどうか。

D委員：一つの常設展示はできると思うが、長期的に考えた場合、展示したものを替えることができなくなると思う。具体的な調査をしないとわからないが、展示替えができないとなると、保存という観点からマイナスになる。寄託や寄贈も考えていかないといけなくなると思う。

事務局：文化財取得基金による購入も考えられるが、寄贈・寄託で幅広く資料を収集することも考えたい。

委員長：資料評価委員会はどうなったか。

事務局：予算も認められた事から、本年度中に立ち上げたいと考えている。

E委員：そのような考えでよろしいか。

D委員：段階的な整備という事になる。始めはこの資料でどう博物館を作るのか、次にグレードの高い資料を集めると。学芸員は与えられた資料で展示を考えないといけない。日本の人形文化の発信となると、ある程度の収集が必要となる。これは今後のビジョンの問題である。

委員長：現実論としての意見かと、初期の構築では日本人形をベースにした博物館、それに視点を合わせて資料の収集が必要かと考えていた。波風があってもその目標を棄ててしまうと、この施設を取り巻く環境が益々厳しくなると思う。高い目標を持ち続ける必要があると思う。

A委員：2点ほどあり、1番目はコレクションに関して、西澤コレクション4,000点の中には岩槻の人形が1点も無いと以前にマスコミに記事にされた。人形組合では岩槻にある古い人形、文献、写真、人形の型などを調べた。今年の3月末にどこの人形店や工房にどういうものがあるかリストを作成し、さいたま市へ提出した。2番目は、過去に、今では作っていない大きな人形20数点の寄贈を受けた。こけおどし的な資料も必要かと、さいたま市に贈呈すると申し入れたが、その

時点では断られた。これは組合で預かっている。

委員長：前の委員会でもその課題、今後の人形博物館の展示、コレクションの充実にも最大の目標の一つとされていた。難しい事もあるだろうが、一つの目標として押さえていきたい。

E委員：施設のコンセプトもそうであるが、名称についてもそうである。博物館か美術館か、一般の人々の受けもある。人形会館という名前は、他の人々の誤解を招いているので、早めに決定して欲しい。

委員長：色々な意見が今まであった。事務局は早く一般の人々のイメージが固まるような名称を付けてもらわないといけないのでは。是澤副委員長にはこの計画の早い段階から関わって頂いているが、資料の内容と展示がうまく繋がっていないという、そういう状況を改善するためにも、強い視点を事務局も持って頂きたい。

事務局：名称は大切であると考えている。美術館か博物館というと、ある程度のイメージを皆さんが持っているので、できるだけ早く決めたいとは考えている。また、準備室がさまざまな場所で説明する際には、博物館的な機能を有した施設としての説明を行っている。

委員長：資料から、本質論的なものまで広い意見があった。準備室には収集の方針をはっきりして頂き、名称もできるだけ早く決めて頂きたい。この議題についてはこういったまとめで宜しければ次の議題にいきたい。

#### イ. 支援組織づくりについて

委員長：議題イ、支援組織づくりについて事務局より説明して頂きたい。

事務局：(支援組織づくりについて説明)

委員長：支援組織づくりに御協力頂いているC委員よりご意見を頂きたい。

C委員：3点ほどある。1番目に人形会館は従来型の観光施設と認識されているが、これは市民の生活を向上させるための文化施設である。そういった考えが普及していない。人を集めるコレクションという言い方もされている。人が集まったら地元の人はそのに行くことができる。岩槻の事を考えないで施設について議論がされている。地元の施設を作る、市民のための博物館、生活を良くする文化的施設、それを担保するための組織である。何を期待しているのか、市民がどう関われるのか、市民がどう豊かになれるかを組織の人々が考えれば良い。2番目に従来から住民主体として町内会的な組織を作ることがあるが、こういった組織は創造的な仕事をするのが難しい。都市計画の中でも難しい所にこの施設は立地している。住民主体に考えるととっても限界がある。岩槻に住む人もいれば働いている人もいる。元々岩槻に住む人もいれば最近転居した人もいる。これら混在している人々をまとめていくのがこの組織。地元が考えている事を具体化していく。マーケティングの専門家はこういう方法で知らせることができると教えていく。地元の人々が積極的なのでうまくいくのでは。3番目に赤字がどうかという議論が出ている。赤字という説明は間違っている。他の区に文化施設はあるのに、それが無い岩槻は文化を享受できない、だから必要という事を住民が納得すれば良い。浦和には文化施設がたくさんある。市民のものとするために開館する。なぜ岩槻が施設が無い事を我慢するのか。その場合の根拠は何か。全ての区に文化施設があり、区らしいアイデンティティを出す施設があって良い。市民が分析して施設を作るには幾つかのステップがある事がわかれば良い。1に昔からの人に産業では無く市民施設であるという啓蒙。2に收藏される人形のコレクションが素晴らしく生活文化の未来が見えるので関わっていくというステップ。最後に今欲しいのは、名称、展示物、機能、この3点である。旧来の人に説明し未来を見ることができるとPRしていくにも早く名称を決めて頂きたい。

委員長：明解な内容で支援組織について説明がなされたと思う。目標と機能を説明して頂いた。開館前にこのような組織を作るとは画期的であると思う。今まで出た意見についても、かなり改善されるのではないかと期待するところが大きい。今回新たに委員として加わって頂いたF委員には今後もいろいろと御協力頂きたいが、何かご意見があれば。

F委員：区としてはまちの活性化に繋がるので、協力していきたい。岩槻の気質でいえ

ば、このような施設には馴染みが無い。文化はあるが、区民が馴染んでいかない。情報発信を十分行っていきたい。

委員長：施設の関わり、どういう発想で機能するかを早く市民に知って頂く必要がある。そのためには支援組織が大きな役割を担うと思う。G委員は埼玉県近代美術館の友の会づくりなどに関わっているが、今のご意見について感想はどうか。また提言など。

G委員：この施設に市民の理解が得られないとは思わないが、今は反対意見が出やすくなっている。したがってこの新組織に異論は無い。ただし、この支援組織はプラットフォームが準備室を支える形になっているが、下部組織がしっかりすれば上部組織が良くなるというのは錯覚。実際には準備室が厳しい人々に囲まれると思った方がよい。周辺が先行して真ん中が空っぽであった場合、運営方針が明確でないと圧力団体になっていく。過去の事例でも、地元の期待が大きい人ほど暴走しやすい。外部組織と準備室が同じぐらいの力を持っていないといけないと思う。そういう準備室になって欲しいと切に希望する。

委員長：歯車が合っていないと難しいのだろう。村上委員をはじめとする活動と事務局の活動が充分連携しないといけない。B委員は、ゼミの学生らと岩槻でアンケート調査をされたそうであるが。

B委員：立教大学の都市環境政策のゼミでは、数年前から町づくりについて調査し、提言していく機会を求めている。人形文化が中心となった町づくりを進めていく可能性を探るために調査を行った。4月にゼミの2、3年生が雛めぐりに参加した。5月13日にはゼミ生が25名参加した。2、3年生が5つのグループに分かれて生活の魅力、観光の魅力を高めるためには何が必要かについて、景観、都市回遊性、買い物・飲食、市民への浸透、市外の方へのPRといった項目毎に分かれて調査を進めている。大学生の視点での調査である。コンサルティングまでイメージして、仮想クライアントとして区役所、準備室、友の会に提言したいと思っている。今作業中である。岩槻区役所におけるアンケート調査は、3月前に実施させて頂いた。窓口に来ている人に意見を伺った。観光客に移動しやすいまちは市民にとっても移動しやすいまちと考え、27名の方に答えてもらった。手元資料の3枚目は市外への人形文化の浸透について聞き取るための用紙。小学校2校、



中学校2校、岩槻商業高校に協力を得て進めた。人形文化、歴史に興味を持ち、未来の担い手になっていくかという事を聞いた。

委員長：参考になると思う。その他に何かありますか。

E委員：支援という事に、区民の皆さんが関心を持たないとあるので、館の名前を早急に決めて頂きたいとあったが、例えば一般公募にしたらどうか。関心を起こすためにその他に方法はあるのか。

事務局：コンセプトで名称がおのずから決まっていくと思っていた。複合施設で例えば外国の言葉などを使いながら、公募で名称を募集する方法もあるが、今は特に考えていない。

E委員：参加してもらうためには、公募でも良いのでは。

事務局：市民参加の観点では、公募という手法は有効であると思う。

委員長：正式名称は公募では困るのでは。

C委員：例えば正式名称にさいたま市人形文化創造施設というのがあり、ニックネームだけ公募する場合がある。

委員長：そういった例が多いただろう。

事務局：愛称を募集すると、施設に親しみやすく、馴染みやすくなると思う。正式名称は 博物館といった名前になるであろう。

B委員：キャラクターのようなものを提案してもらう市民参加もある。ベタではあるが。

委員長：提供する材料で精査し、出していないといけない。コンサル的な力も借りて行っていく。G委員、何か意見は。

G委員：その施設が地域に定着すると市民は略称で呼ぶ。例えば国立東京博物館をトー

ハクと呼ぶ。それを逆手に取って、トーハクとPRもしている。自然発生的に出ることもある。最初に決めてしまうと、失敗することもあるのでは。さいたまでは、「かわはく」(埼玉県立川の博物館)は元々そういった名前であるが。

委員長：愛称を募集するなど今様のプレゼンが必要であると。提供された方が親しみもある。色々なケースが考えられる。

E委員：人形会館という名称は過去のもののような印象。話題を出して、建設予定地にも看板を出すなどして欲しい。

委員長：会館という名称は早く変えた方が良い。これから支援組織については、進めていくが、ご了解頂けるか。  
(特に異論は無い)

## 8 その他

委員長：その他、事務局から何かあるか。

事務局：次回の委員会であるが、資料整理、展示計画、支援組織づくりの進捗についてご報告したい。

委員長：開催数もさることながら、結論が出せる議題を出せるようにして欲しい。定例で無くとも良い。委員の方々もお忙しいので。

A委員：お知らせがあるが、平田郷陽の企画展が佐野美術館で開催されている。今後同様のものが佐倉美術館で開催される。ご興味のある方は是非ご覧になって欲しい。

委員長：それではこれで議事を事務局にお返しします。

以上